

1. ヒトを対象とした研究では、原則として所属機関の倫理審査委員会などの審査を受け、参加者の同意を取得した上で実施されたものでなければならない。動物を対象とした研究では、実験動物の管理及び利用に関して、所属機関等の動物実験指針に準拠して実施されたものでなければならない。以上の事項に該当する研究論文では、このことを方法の項に記載するものとする。
2. 臨床試験は、臨床試験登録公開制度システム（UMIN-CTR <http://www.umin.ac.jp/ctr/index-j.htm> など）に登録すること。前向きランダム化比較試験（randomized controlled trial：RCT）ではCONSORT2010に準拠しなければならない（参考表を後頁に示す）。観察研究（observational studies）においては、STROBE声明チェックリストに原則として準拠して記載する（参考表を後頁に示す）。
3. 利益相反（Conflict of Interest：COI）にかかる事項がある際には、日本医学会の「医学研究のCOIマネージメントに関する規則」に準拠し、その内容（実験薬の提供、資金提供など）及びCOI自己申告書を添付する。該当しない場合には、その旨を論文の最後に記載すること。
4. 論文は、和文または英文とする。英文の場合には、必ずネイティブ・サイエンティストの校閲を受けてから投稿することとし、その証明書を論文に添付する。原稿は、A4版1ページあたり、日本語1,600字（図表は各々0.5枚と数える）を基本とする。和文は、A4版用紙縦に横書きし、英文は、すべてA4版用紙縦に、ダブルスペースでタイプする。投稿規程に詳説する。
5. 論文は、原則としてMS Wordファイルとする。図表については、pdfに変換したファイルとする。
6. 投稿された論文は返却しない。
7. 文章は、新仮名づかい、句読点は、「。」（マル）と「，」（コンマ）とする。カッコ（「（」，「）」など）は、1文字とする。
8. 図表の原図は、黒インクを使って明瞭に書く。縮小することが適当と考えられる図は、図内の数字または、文字を縮小率に応じて大きく書く。
9. 図表はすべて本文とは別紙とし、本文中に挿入すべき箇所を論文の欄外に朱書により、明瞭に指定する（図1、表2など）。
10. 印刷・製版に不適当と認められる図表は、書きかえ、または割愛を求めることがある。
11. 図表は原則として黒インクを使用とする。カラーの図表を用いる場合は、冊子体についてはその費用は著者負担とする。オンライン版は、カラーの図表及び動画が電子付録として無料で掲載が可能となる場合があるので編集委員会と投稿者と相談の上、決定する。
12. 原著・報告論文には、1,200字以内の和文抄録と200～300語程度の英文抄録をつけ、5つ以内のキーワード（和文と英文）を添える。英文抄録には、必ずネイティブ・サイエンティストの校閲を受けてから投稿することとし、その証明書を論文に添付する。総説論文には、同じ言語の抄録をつけ、5つ以内のキーワード（和文と英文）を添える。
13. 文献は引用したもののみとし、引用順に並べ、本文中の引用箇所には、必ず肩番号をつけ文章の最後に記載する。例えば、「・・・知られている¹⁾。」または、「・・・²⁾⁴⁾」「・・・¹⁾⁻⁵⁾」のようにする。
14. 複数著者の場合は、1名を記し、あとは「ほか」、英文では「et al.」とする。
15. 文献の書き方は以下のとおりとする。

A 雑誌等の定期刊行物の場合

1. 雑誌の一論文

著者名、論文名、誌名、巻（号）；はじめのページ～終わりのページ、出版年。

- 1) 上岡洋晴ほか、高齢者の転倒予防のための運動療法。CLINICAL CALCIUM. 23 (5) : 719-729, 2013.
- 2) Yamada M, et al. Trail-walking exercise and fall risk factors in community-dwelling older adults: preliminary results of a randomized controlled trial J Am Geriatr Soc. 58 (10) : 1946-1951, 2010.

2. 印刷中の論文

著者名、論文名、誌名、巻（号）、出版年、掲載予定。

大洋洋平ほか、脳卒中後の大腿骨頸部骨折：退院後の在宅リハビリテーション～再転倒予防を目指して、Journal of Clinical Rehabilitation. 13 (4), 2004, 掲載予定。または、英文の場合、in press

3. 特集の一記事

著者名, 論文名 (特集:), 誌名, 巻 (号); はじめのページ-終わりのページ, 出版年.

小原淳. 睡眠薬, 抗うつ薬, 抗不安薬による転倒・転落 (特集: いつもの処方・使い方も危ない! 薬で起こる急変はこうして防ぐ). エキスパートナース. 22 (13): 60-64, 2006.

4. 会議報告

著者名, 論文名, 会議名, 誌名, 巻 (号); はじめのページ-終わりのページ, 出版年.

萩野浩ほか. 骨粗鬆症性骨折発生後の QOL 変化. 第 15 回 日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会. リハビリテーション医学. 42 (8): 578, 2005.

5. 新聞

見出し名, 新聞名, 出版年月日 (曜日) 面.

10月10日は転倒予防の日. 読売新聞. 2006年10月9日 (月) 朝刊10面.

B 単行本の場合

1. 図書1冊

著者名, 書名, 出版者, 出版地, 発行年.

1) 武藤芳照編. 大人も知らないからだの本: 運動器のおはなし. 「運動器の10年」日本委員会, 東京, 2005.

2) Miyashita M, et al. Medicine and science in aquatic sports (Medicine and sport science; v. 39). Karger, Tokyo, 1994.

2. 図書の一部

著者名, 論文名, 編者名, 書名, 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, p はじめのページ-終わりのページ. (シリーズ名: シリーズ番号)

1) 岡田真平ほか. 11 ボール運動あそび. 武藤芳照ほか編. 転倒予防教室. 第2版. 日本医事新報社, 東京, 1999. p160-161.

3. シリーズ全体の場合

著者名, 書名, 出版地, 出版者, 出版年.

1) 内閣府編. 障害者白書. 東京, 国立印刷局, 1994 -.

C 電子媒体の場合

1. 電子雑誌

著者名, 論文名, 誌名, 巻 (号), 出版年, 入手先< URL >, 入手日時.

1) 河野徳良. アスレティックトレーニングにおける研究テーマの変遷. 体力科学. 54 (1), 2005.

入手先< http://www.jstage.jst.go.jp/article/jspfsm/54/1/55/_pdf/-char/ja/>, 参照 2007-2-13.

2) Sanchez-Garcia S, et al. Anthropometric measures and nutritional status in a healthy elderly population. BMC Public Health. 7 (2), 2007, available from < <http://www.biomedcentral.com/1471-2458/7/2>>. Accessed 2006-12-23.

D 総括研究報告の場合

著者名 (代表のみ), 分担部分のタイトル, 代表研究者: 名前「報告書のタイトル」, 省庁・民間財団の補助金・研究助成名, 年度報告書の種類 (NO: あれば), ページ, 年.

1) 上岡洋晴. 水中運動の非ランダム化比較試験のシステマティック・レビュー: エビデンスの包括整理と質評価. 代表研究者: 武藤芳照「水の摂取・利用が健康障害の予防及び健康増進効果に及ぼす影響について」, 厚生労働科学研究費補助金健康安全・危機管理対策総合研究事業, 平成 21 年度総括・分担研究報告書 (H20- 健危 - 一般 -007), pp.37-56, 2010.

2016年6月10日改定

